

# 津山市史民俗部会調査

井上 真美

岡山県津山市では、2013年度より『新修 津山市史』の編さん事業が開始されている。その中の、民俗部会の調査の一環として行われている民具や神棚の調査に、東昇（歴史学科准教授、近世史部会執筆者）他、文化情報学研究室、中世・近世の院生が参加した。以下に、その調査内容の概要を述べる。なお本調査は『津山市史だより』4（2015）に紹介された。

## 1. 民具調査概要

2015年9月24日から26日まで、旧加茂町の民具が保管されている旧めぐみ荘にて、民具調査をおこなった。保管されているのは、農具や生活用具をはじめとして、製紙関係道具や養蚕、山樵道具などが多い。

その中でも、今回調査した民具は主に農耕に使用された唐箕や万石、むしろ機のほか、養蚕に使用されたもの、消防ポンプといった比較的大型の資料である。『新修 津山市史民俗編』の執筆者である安倉清博氏の指導のもと、それら民具の寸法を計測し、民具の材質や形状、付属品などの情報を中心に目録を作成した。また、目録を取った民具の写真撮影も並行しておこなった（写真1、2、3）。その他、民俗部会長前原茂雄氏に、近隣の史跡を案内、歴史を解説していただいた。

## 2. 神棚調査

2016年1月16日から18日まで、宝暦頃に建てられた商家である苅田家（津山市城東地区）の神棚等の資料調査をおこなった。苅田家は江戸時代を通して商家として財をなし、明治維新以降も新たに事業を展開して栄えた家である。現在、その住宅と付属する酒造場は、苅田家より津山市に寄贈されている。調査初日は、実際に苅田家へ赴き、神棚や家の間取りを確認した。その後、神棚に収まっていたお札などの位置関係を把握するため、保存状態を写真撮影したのち（写真4）、お札を取り出し、津山郷土博物館にそれらを搬入した。

調査2、3日目は津山郷土博物館研修室にて、苅田家の神棚に収められていたお札の写真撮影と目録作成をおこなった（写真5）。目録には主に、お札の表裏に記載された内容、寸法、神棚にどのように入っていたのか、複数のお札が入っていた場合はその順番などの情報を記載した。



写真1 むしろ機の計測



写真2 写真撮影のため消防ポンプを移動させる



写真3 写真撮影



写真4 取り出したお札に番号付をする



写真5 研修室にてお札の写真撮影と目録作成をおこなう